

デマツサルタン国

https://id.wikipedia.org/wiki/Kesultanan_Demak

デマツサルタン国(デマツ王国)は、デマツに 15 世紀末に建国されたジャワ島で初めてのイスラム王国であった。デマツは建国の数年前に弱体化していたマジャパヒト Majapahit 王国の領土の一部であった。ジャワの伝承によると、マジャパヒト王族の一人であるラデン・パタ Raden Patah によってこの王国が建国されたという。

デマツ王国はマジャパヒトの支配を終焉させるとともにジャワ島におけるイスラムの拡張にその役目を果たした。16 世紀前半の期間にわたり、サルタン・トレンガナ Trenggana の治世下でデマツ王国はその繁栄の頂点を迎えた。その時代、同サルタンはジャワ島の主要港を制圧するとともに、イスラムに接触していなかった内陸部まで制圧した。デマツによって制圧された主要港の一つがそれまではスダ王国の支配下にあったスダ・クラパ Sunda Kelapa であった。1511 年のスダ王国とポルトガルとの提携関係はデマツに脅威を与えることとなった。1527 年にファタヒラーFatahillah に率いられたデマツとチレボン Cirebon の連合軍は、ポルトガルとスダ王国に一撃をくらわして撤退を余儀なくされたスダクラパ攻略を成功させた。その後ファタヒラーはこの港をジャヤカルタ Jayakarta と改名した。ジャワ島外でもデマツはスマトラ島東部のパレンバン Palembang とジャンビ Jambi とを支配下におさめた。

デマツ王国はパナルカン Panarukan の戦いの中で 1546 年に起きたサルタン・トレンガナが暗殺されたことを契機として衰退に向かった。スナン・プラウト Sunan Prawoto¹がサルタンの地位を継いだが、1547 年に、デマツ王国の王になろうとしたジパン Jipang の領主であるアルヤ・パナンサン Arya Panangsang²に暗殺されてしまった。王権の奪い合いが直ちに始まったが、アルヤ・パナンサンはパジャン Pajang の領主であるジョコ・ティンキル Joko Tingkir³によって殺された。ジョコ・ティンキルは都をデマツから彼の領地であるパジャンに移

¹ トレンガナと Ratu Pembayung の間の息子

² スナン・プラウトの実子

³ トレンガナの娘婿

した。以上のようにデマツ王国はパジャン・サルタン国の建国と共に滅亡した。

【地名の由来】

デマツはビントロという名の植民地から始まった。当初森林であったその土地をラデン・パタ⁴が開墾しその後ラデン・パタはスナン・アンペル Sunan Ampel の弟子となったとともに師匠の娘を妻にした。この森は良い香りがするグラガ gelagah⁵という草が生えていたので、この土地はグラガワギとも呼ばれた。

デマツという地名の由来はいくつかあって、プルバチャラカ Poerbatjaraka によるとジャワ語で湿地帯を示す delemak が語源とのことだ。ハムカ Hamka の説ではアラビア語で泉あるいは涙を意味する dimak が、スチプト・ウィリヨスパルト Soetjipto Wirjosuparto の説では古典ジャワ語であるカウィ Kawi 語で下賜あるいは財産を意味する言葉が語源であるとのことだ。

【デマツ王国史】

++建国++

デマツ王国の建国に関しては明確になっていない。デマツの町は 15 世紀の後半に間違いなく華人ムスリムの Cek Kopo によって作られたとみられる。その子供はトメ・ピレス Tome Pires が自著の Suma Oriental(東方世界の記録)で述べたパテ・ロデム Pate Rodim であろう。

より人口に膾炙しているマタラム Mataram の伝承では、マジャパヒトの最後の王の息子であるラデン・パタがデマツを建国したということになっている。歴史家のテオドール・ゴーティエ・トーマス・ピジョー T.G.Th. Pigeaud とグラーフ H. J. de Graaf はこの伝承は信用できないとは言っているものの、最初はグルシツ Gresik 上陸しその後デマツに定住した外来の華人ムスリムがデマツの支配者の祖先であろうと彼らは結論付け

⁴ マジャパヒトのクルタブミ王と混血華人の間に生まれたがパレンバンに追いやられた。長じて同王に直面しこの土地を下賜された。この土地は海岸沼沢地であり農業には適さなかったため未開墾地であった

⁵ Saccharum spontaneum 野生サトウキビ

ている。

++パティ・ウヌスの時代++

パティ・ウヌスが支配していた時代にデマツはマラッカに本拠地を置いたポルトガルの脅威を感じ、同地のポルトガル攻撃のために艦隊を数回派遣した。

++トレンガナ支配の時代++

サルタン・トレンガナは東ジャワと中部ジャワでのイスラム布教に活躍した。彼の下で、スンダ・クラパをパジャジャラン王国から奪取するとともに 1527 年に上陸しようとしたポルトガル軍を追い払ったり、マジャパヒト王国の領地であった地域を次々に支配下に入れたようにジャワの地域に支配を広めていった。Tuban は 1527 年に、Madura は 1528 年に、Madiun は 1529 年に、Surabaya と Pasuruan は 1527-1529 年に、Kediri は 1529 年に、そして Malang は 1529-1545 年にデマツの支配下に入った。

サルタン・トレンガナはシトウボンド⁶ Situbondo のパナルカン Panarukan 制圧攻撃の最中の 1546 年に没し、スナン・プラウトが後を継いだ。ブランバガン Blambangan 王国とはまだ接触していなかった。

この時のデマツ軍の司令官は、後日トレンガナの娘婿になるスマトラのパサイ出身のファタヒラー Fatahillah であった。スナン・グヌン・ジャティ Sunan Gunung Jati⁶の息子のマウラナ・ハサヌディン Maulana Hasanuddin はバンテン内陸部 Banten Girang の征服をトレンガナに命じられた。その後マウラナハサヌディンはバンテン王国を独立国として建国した。また、スナン・クドゥス Sunan Kudus は彼がクドゥスに移る前にデマツのモスクの長となるとともにマジャパヒト征服における最高指導者になった。

++王国の衰退++

デマツの三代目の王を決めることは順調にはいかず、スロウィヨト Surawiyoto (スカル Sekar)王子とトレンガナの間で熱い対立が生じそれがスナン・プラウトによるスロウィヨトの暗殺事件に続いた。この暗殺事件は

⁶ チレボンサルタン国の初代サルタン

スロウイヨトが金曜礼拝を終わって帰宅するときに川岸で起きた。この事件以降、スロウイヨトは「川で命が果てた」という意味のスカル・スド・ルペン Sekar Sedo Lepen という名で知られるようになった。1546年にサルタン・トレンガナが没し、デマツの支配は息子のスナン・プラウトが四代目の王となったが、1574年にスナン・プラウトと妃が、スロウイヨトの息子のアルヤ・プナンサン一派のルンクツ Rugkud に暗殺された。アルヤ・プナンサンは当時ジパンの領主でありまたスナン・クドゥスの最愛の弟子でもあった。アルヤ・プナンサン一味はジェパラ Jepara の領主であった Hadiri も暗殺したと語られている。この事件はデマツの支配下にある領主たちのアルヤ・プナンサンに敵対する影響を与え、そのひとりがサルタン・トレンガナの娘婿のサルタン・ハディウイジャヤ Hadiwijaya、ジョコ・ティンキルであった。ジョコ・ティンキルの養子で、ジパン攻略の際にパジャン軍に合流していたスタウイジャヤによりアルヤ・プナンサンは暗殺された。アルヤ・プナンサンの死亡によりデマツ王国時代は終焉を迎えた。ジョコ・ティンキルは都をパジャンに移しパジャン(サルタン)王国を建国した。デマツ王国の存続期間は短く、たった 79 年間だけであった。

【経済】

トメ・ピレスは 16 世紀にデマツからの輸出品はコメ、香料と果実だと書いている。これらの輸出先はマラッカとマルクであり輸送にはジャンク船とペンジャジャブ penjajab が使われた。またピレスはデマツが周辺の農業地位で産するコメの集積場になっていたと記録している。農業経済活動の中心地になったことでその役割は 1513 年に Juwana⁷が衰退した後にますます重要になった。その外に、デマツの交易の一つとして奴隷売買が行われていたとピレスは述べているが、その当時奴隷貿易が行われていたかどうかは明確ではない。デマツではマラッカや東西インドからの家畜と衣料品を輸入していた。



⁷ 中部ジャワ州北東部の Rembang の西側の町

デマツでの経済システムは国内通貨と海外通貨の利用に支えられていた。15世紀初めの中国歴史書には、中国の銅銭がジャワでも通貨として使われていたと述べている。ピレスも同様にポルトガルの通貨もジャワ人に好まれていると書いている。ジャワの現地通貨はタエル(両)として見られたとピレスは述べている。

【サルタンの在位期間】

サルタン名	在位期間	前職	出典
ラデン・パタ Raden Patah	1478-1504	デマツ領主	Babad Tanah Jawi & Suma Oriental
トレンガナ Trenggana	1505-1518		Babad Tanah Jawi & Suma Oriental
パティ・ウヌス Pati Unus	1518-1521	ジェパラ領主	Babad Tanah Jawi & Suma Oriental
トレンガナ Trenggana	1521-1546		Babad Tanah Jawi & Suma Oriental
スナン・プラウト Sunan Prawoto	1546-1547		Babad Tanah Jawi & 中国歴史書
アルヤ・プナンサン Arya Penangsang	1547-1554		Babad Tanah Jawi

【地方領主】

領主名	肩書	出典
パティ・ウヌス Pati Unus	Adipati Jepara (ジェパラ県)	Babad Tanah Jawi
ラトウ・カリニヤマツ Ratu Kalinyamat	Adipati Kalinyamat (ジェパラ県)	Babad Tanah Jawi
キ・アゲン・プンギン Ki Ageng Pengging	Adipati Pengging (ボヨラリ県)	Babad Tanah Jawi
ジョコ・ティンキル Joko Tingkir	Adipati Pajang (スラカルタ市)	Babad Tanah Jawi
アルヤ・プナンサン Arya Penangsang	Adipati Jipang (プロラ県)	Babad Tanah Jawi
ラデン・クセン Raden Kusen	Adipati Terung (シドアルジョ県)	Babad Tanah Jawi
キ・アゲン・パンダン・アラン Ki Ageng Pandang Arang	Adipati Pandanaran I (スマラン市)	Babad Tanah Jawi
スナン・バヤツ Sunan Bayat	Adipati Pandanaran II (スマラン市)	Babad Tanah Jawi